

社会基盤を観光資源に 県がモデルコースマップ

県は、橋やダムなどの社会基盤を観光資源化する取り組みの一つ「インフラツーリズム」のモデルコースマップを作成した。三豊市財田町版と宇多津町版—写真—があり、地域の寺や滝、古木、古民家なども紹介する。県道路課は「地域の新たな魅力を知ってもらい、交流人口の拡大につ

多津町版は、道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」が起点。東洋文化研究家のアレックス・カー氏監修で改修した古民家「古街の家」や水門などを巡る。移動距離や所要時間、各施設の情報なども盛り込んだ。裏面には、足を延ばして見に行ける土木施設なども紹介。スタンプラリーも業

「地域の新たな魅力知って」

なげたい」としている。

経済界や自治体などの関係者でつくる「環瀬戸内海地域交流促進協議会」による取り組みの一環。財田町版は、道の駅「たからだの里さいた」が起点。香川用水記念公園や香川用水調整池・宝山湖、樹齢800年の木などを巡る。宇

しめる。

マップは、モデルコース周辺の道の駅などで配布しており、県道路課のホームページからダウンロードできる (<http://www.pref.kagawa.lg.jp/douro/home/infratour/infratour.html>)。

【深尾昭寛】

